



押仲

細川町会長題字

押上一丁目仲町会広報部

編集責任者 五月女 稔

第十二号

平成十四年三月三十一日

【入卒祝賀会】

三月の中旬だというのに桜の花が咲き始めました。卒業式の頃には満開になることでしょう。そんな小春日の三月十七日(日)に新高輪プリンスホテル内のレストラン、マルモラーダにて入卒祝賀会が行なわれました。

三十八名の大勢の参加で子供達も父母達も、大いに食べ、おしゃべりをして、あつという間のランチタイムでした。

今年、小学校を卒業するのは並木慎平君、峯岸純也君、中学校を卒業するのは中尾あいみさん、櫻井由美子さんの合計四名でした。そ



れぞれ、六年間、二年間の学校生活、そして、子供会の中でも良い思い出がたくさんできた事でしょう。これからも頑張つてほしいと思います。

この春、小学校に入学するのは畑中大介君、金山武史君、駒崎友禎君、風見有砂さんの四名です。

又、新五年生になる、風見尚希君が新しく子供会の会員になります。

新一年生が四人も入学し、子供会にもぎやかになりそうです。

町会の皆様にもあたたかな目で見守っていただきたいと思ひます。今後ともよろしくお願い致します。

本年度子供会長より

この一年間、子供会活動におきましては、皆様にひとかたならぬお世話を賜り、ありがとうございました。

業平小バザー、ラジオ体操、子供会プール、夏休みボーリング大会、入卒祝賀会等々、お蔭様で楽しく過ごすことができました。

平成十四年度は例年の行事のほか、業平小開校八十五周年行事があります。今後とも、皆様にはご指導下さいますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

寄稿「一年を振り返つて」

業平小学校校長 西宮 美勝

二十一世紀の最初の年は、池田小学校の児童殺傷事件や児童虐待、また、同時多発テロや長引く不景気など暗いニュースの多い憂鬱な結果となりました。

一方、新教育課程の実施に向けて、総合的な学習が様々な形で実践され、本校では文部科学省のエイズ教育(性教育)の推進指定を受け、健康教育が実践されました。

研究主題の「わたしっていいなあ あなたってステキ!」といえる「性教育」のとおり自分を知り、自分を大切に育ち、友達の良さを認めあい、互いに励ましあう児童が育つて参りました。

これからは、家庭同士で、また隣近所の人々と更に心豊かな人間性を育てていってくださることを願っています。教育の効果は、十年後、二十年后に現れます。「どの子も育つ、親次第です。先生次第です。そして自分次第です。」お互いに頑張りましょう。

「業平PTA通信」一七二号より



街の語り部

この記事は町内に古くからお住まいの方々から昔の地元の状況をインタビューし、平成三年に墨田区役所の企画経営室で取り纏めた「区民が語る昭和生生活史」の中から引用させていただきました。前回に続き第三回は多賀左知子さんと井上和子さんへのインタビューです。

区画整理と消えたごみ箱

区画整理で家ごと移動

多賀 わたしがここ押上一丁目に移ってきたのは、昭和三十四年なんです。その時分、この辺りは区画整理の真っ最中でした。移転して新しく出来た家がポツンポツンとありましたが、まだ、今の家の敷地もサラ地で、道路も完全には出来ていませんでした。

それ以前には台東区に住んでいて、売り家を探していたんです。初めて押上一丁目に来た時は、あまりにも道幅が狭くて、曲がりくねっていましたが、いったんは買つのをあきらめました。小さい子供がいましたので、万一火事の時などは危険だと思ったものから・・・。

それからしばらくして、区画整理があるという話を思い出して、再びここを訪ねたんですが、その時は、だいぶ整理も進んでいて、道も広くなっていましたので、コシ鳴らすんでも大丈夫かなと判断して、今の住所のところに移って

きたんです。

井上 昭和二十二年に三田(港区内)から嫁いできて以来、ずっと押上に住んでいます。区画整理のときは、もとの座敷から家ごと引きずって今の敷地に移りました。

引きずるといのは、家そのままコロに乗せて、コロコロと動かすんです。区画整理中は、家を建て直すか、引きずって移すかのどちらかでしたから。

五年間ほどにわたって、この辺り一帯を整備したわけなんです。東京オリンピックの始まる前には、終了したと思えますけど・・・。多賀 ちょうど、町名が向島請地町から押上一丁目変わった頃ですよ。

井上 戦災で焼けてしまったけれど、東武線に「請地」という駅もありましたね。区画整理を始めたのは、戦後、昔のままのところにとどんだ家が建つて、一層狭くなったり、曲がりくねってしまったりしたからなんですよ。うちの辺りでも三角地帯が多くて、不便だったんです。それを、もう少し町並みをきれいにしなくちゃというので、各々の地所を出し合つて、道路を直して作り直して整地したんですね。地所を交換したり、坪数の大きさにあわせて移動したりしましたね。

多賀 当時は、坪いくらなどと考えるもみませんでしたからね。

子供会の思い出

松倉喜富

私は、昭和二十五年二月にこの押上一丁目仲町会に居住することになりました。当時は終戦直後でマッカーサー指令により町会は解体され町は向島請地南部防犯協会(会長石島登一氏)として運営されていました。

私が当町へ住むようになって約半年位たったある日、石島会長さんが突然私の家に来られ、当町内しらとり子供会は現在活動休止の状態となっており、子供達のため何とか子供会を復活させたいので是非子供会長を引き受けてほしい。」とのことでした。

私は未だこの町内に住んで日も浅く又サラリーマンで日中は不在で町内事情もよく分からないので再三辞退しましたが、今、振り返ってみて若気のいたりと言うか、会長さんの熱意に負けて子供会会長を引き受けることになってしまったのです。

幸い家内が地元の生まれなので何とか助けられ、また徳田とめ様・田村やま様等役員皆様のご協力により約十六年間の長い間子供会長を務めさせていただきました。

そこで私はしらとり子供会を運営するに当って先ず最初に子供会後援会と云う組織を設け、子供さんのいないご家庭にも極力ご賛同ご協力を願ひ殆んど町ぐるみの後援会が発足しました。

その当時の子供達は現在のように学区制はなく当町内の子供達は業平・言問小梅・柳島の各小学校に分散して通学していました。

また子供会と云う組織も墨田区内(当時は本所区)に点々と僅かにあった程度で、その中でも当しらとり子供会は最も早くから活躍しておりました。ただその当時は勿論学校との連携などは全然なく子供会はただ戦後の荒廃化した社会に子供達が健全に成長されることを目的として



しらとり子供会夏休みさよなら大会羽田空港夕食会

自主的に活動していた時代でした。

また当時の大人達は戦後復興に向けて必死になって働いていた時代で、現在のように家族で海外旅行など想像も出来ませんでした。

このため子供会行事には家族ぐるみ町ぐるみで楽しもうと参加者はいつも一名以上と云う盛況でした。

主な行事としては、やはり夏休み中の行事が多く毎年千葉県稲毛海岸へ海水浴に行きました。

ところがある年大変な事故を起こしてしまったのです。海水浴を終えて帰りの人員点呼をしたところ男の子が一人いないのです。早速海水浴場事務所へ連絡し海水浴場全域にマイク等で呼びかけ探し回ったところ、本人は沖から方向を間違えて隣接の谷津海水浴場へ帰っていたとの連絡を受け安心しましたが本当に胸つまる思いでした。

それ以降海水浴は充分な安全管理を出来ない中止することにしました。

そこで翌年から埼玉県名栗川温泉への旅を計画実施しました。

ここは名栗川を堰止めし、堰の上流は大人も泳げるほど深いところもあり、また、堰の下流は流れが浅く子供達も楽しく遊べるので安全であり、更に川の側には温泉宿があつて温泉へも入れるし、食事休憩も出来るので家族ぐるみ親睦には最適な場所でした。

でも、現在は環境汚染の影響などでどうなっているのでしょうか。

そのほか、都下秋川深谷への旅などそれぞれ同じ場所へ二三年ずつ実施しましたががいずれも大盛況でした。また羽田空港の夜景が美しいと云うので夕方から空港見学に行ったこともあります。

また、町内での活動としては子供達の登下校時の交通整理、夏休み勉強会、水泳教室、フジオ体操の会、小中学生の入卒祝い等、今も実施されていることを懐かしく思い出されます。

一方、子供会の組織運営の面では時代の流れとともに大きく変化してきました。

まず、昭和二十年代の子供会は地域の自主的な活動でしたので、小学校PTA役員と子供会役員との連携がうまく行かず苦労しましたが、昭和三十年代後半になると業平小学校が校外補導教育の一環として地域の子供会活動を重視し、当時業平小学校の野中先生達が子供会育成に力をそそぎ、今まで子供会組織のなかつた町会に働きかけ、業平小学校区域の全町会に子供会が結成されるようになり、やがて業平小学校PTAのもとに業平小学校連合子供会が発足するまでに発展しました。

そして、業平小学校連合運動会現在の親子スポーツ大会が毎年盛大に実施されるようになったのです。

このように地域子供会と学校との連携が緊密になってきた昭和三十年代後半には、当町子供会も夏休み行事に業平小学校の地域担当の先生を招き、勉強会(一週間)などを実施したり、また小学校のプール(当時は校内に隣接の業平公園のプールを使用)開放で各子供会ごとに日割を決めて水泳教室なども実施してきました。

そして昭和四十一年の冬休み行事として晴海アイススケート教室を実施したとすの事です。

私はアイススケートについて何の知識も経験もなく、ただ子供達がすべって転倒しケガをしたら大変だと実施に強く反対したのですが、役員皆様の賛成多数で実施することになりました。

ところが実施結果は大成功でした。私も帰る頃にはリンクの回りの手すりから手を離してすべることが出来るようになったのです。

私はこのアイススケート教室を振り返り、もう時の流れと子供達の成長について行けないと自覚し、翌昭和四



昭和41年10月佐倉芋掘り

十二年三月に子供会長を退任させていただきますました。

光陰矢の如しと申しますが私が子供会長を退任してからも三十六年にもなります。

しらとり子供会は現在少子化対策・小中学校の選択の自由化等きびしい社会環境の中で子供会のお母さん達が毎年交代で子供会長を引き受けられ子供会運営にすばらしい活躍をされております。

終わりに、もう一度昭和四十年代後半を振り返り当時の子供会会長安藤勝康様が常々、子供会の運営は子供会のお母さんに負うところが大きいのだから子供会長は子供会のお母さんになっていただくのが最良なんだが」と願っていたことを思うと感慨無量です。

ここに改めてしらとり子供会役員皆様のご活躍に心から感謝申し上げますとともしらとり子供会の更なる

ご発展をお祈りいたします。

【初めての「泊旅行」】

一八会旅行記

一八会発足以来初めての「泊旅行」が行われました。日帰りの旅行は何回も行われたのですが、一泊旅行となると何となく心が浮き浮きしてくるものがあるものですね。

今回は、塩原温泉への旅行で十五名以上の参加者があると出発地の東京から往復ともバスで送迎してくれるという優れ物で、会長と幹事の腕の良さと頭の回転早さが露呈した訳です。

三月九日(土)午前八時に集合して、マイクロバス「湯けむり号」に乗車します。

今回の参加者は、当初合計十七名の予定でしたが、幾人か不参加者が増えて結局は、合計十四名の参加でいざ出発です。

バスが押上を発車した途端に待ち切れずに一杯飲む人、朝食のおにぎりを食べる人、自分勝手に歌を唄う人、ただひたすらに睡眠を続ける人、誰彼かまわずおしゃべりをする人、レースを分析して評論する人達等で各人さまざまの我がままやり放題で車内は大騒ぎ状態です。

午後からチェックインし、各自部屋へ入館します。なお、同ホテルの設備は、大変整っておりなかなかしゃれたホテルです。

部屋に入るなりいきなり風呂へ向かう人や近くの「ホテルニュー塩原」でボーリングとカラオケに興じる人達やホテルの直近に流れる「箒

川」ほつりを散策する人達で思い思いの気ままな行動をしています。

特に、Y・Oさんは、「箒川」のほつりを散策するうちに見つけた無人の露天風呂「もみじ温泉」(営業時期は五月から十月頃まで)常時四十度ぐらいの噴出湯に苔だらけの汚い湯舟に一人で悦に入っていると、他の仲間に見つかり、冷やかされ笑われていました。

ホテルに戻り何人かの人は大露天風呂に入りに行きました。中には若いころを思い出したように隣の女風呂を覗こうとして岩風呂の境界の岩で足をくじき擦り傷までして必死になった人や岩に登り竹垣越に覗いた人等で大変にぎわいました。

夕食は、小宴会場で全員が集まり始まります。ビールで乾杯の後、食事を取りますが、ずわい蟹や豚鍋をいただきながら宴会がたけなわにな



もみじ谷大吊橋にて

ると備え付けのカラオケで各自好きなだけ歌いまくりです。

サンバの軽快なリズムに乗ってY・Tさんが酔っ払った勢いで浴衣の前がはだけたままで唄っているとS・Oさんが背後から無理やりパンツを引きずり下ろそうとし、唄っている本人は下ろさせまいと必死に抵抗阻止するが、ついに力尽きてパンツの布地が破損し、あまりにも立派な「お稲荷さん」と大きな「象の鼻」が一瞬露出した時は、全員が涙を流しながらの大笑いで大騒ぎでした。特に、眼前にいた数名が、瞬間ではあつたが、見てはならないものを見た罪悪感で、その夜悪夢にうなされたよく眠れなかったとのことです。

二時間の宴会が終わわり、各自夫れ夫れ部屋に戻り二次会になり、持ち込んだビールと焼酎や日本酒でまたまた飲み続けて、まるで酒池肉林の桃源郷の中の宴会は、ますますたけなわになっていきます。

飲みくたびれた者は、眠りにつきそのまま朝を迎え、早速、朝風呂へ大浴場に向かいます。

朝のチェックアウトを済ませると、例のマイクロバスが、首都圏から乗客を乗せてホテルに向かっているの、それが到着するまで待機しなくてはなりません。

ホテル内の売店でお土産を購入したり、正面ロビーでしばらく待機していると、まもなくマイクロバスが到着です。

ホテルの前で全員で、「記念写真」を撮影してから指定されたマイクロバスに早速乗り込みます。バスは帰路につきますが、途中一



平成14年3月10日塩原田吾作に

力所だけ立ち寄る地元の藤原湖の「もみじ谷大吊橋」へと向かいます。吊橋は足元が不安定になるほどの揺れ方であつたので、全員で「集合写真」を撮影して、帰りも同吊橋を渡って、小休止し、昼食後は、一路帰京するだけです。

マイクロバスの中では、全員総当たりのビンゴゲームが開催されました。同ゲームが終了するとアルコール類がないので、そのまま全員が、二日間の温泉疲れで熟睡して車内は大変静寂な状態になり、まるで斎場からの帰路バスと類似状態です。

今回の一泊二日マイクロバス送り迎えの塩原温泉旅行は、大変楽しい思い出深い印象の残る旅行でありました。

今やろうとしてもとても難しいか
もしれませんね。

ごみ箱からポリバケツに

井上 区画整理が終了するこ
ろ、東京オリンピックも間近にせ
まってきた、町の美観のためにと
いうので、道路に置いてあったゴ
ミ箱がなくなつて、ポリバケツに
なつたんです。それまでは、黒い
色をした木製の、ふたが開いたり
閉じたりするゴミ箱が、それぞれ
の家の外に置いてありました。”
井上専用”なんて横腹に書いて
ね。

多賀 うちはコンクリート製の
ゴミ箱でした。木製のもそうでし
たが、正面は上げ下げのできる木
製の戸になっていて、ゴミ屋さん
は、その戸を引いてゴミをかき集
めてトラックに積みます。

井上 今はゴミが増えました
ね。新聞だつてチラシ広告がいっ
ぱい入ってくるし、包装紙も二重
三重に過剰包装になっていきますも
の。

ゴミといえば、部屋を掃除する
時には、新聞紙を細かくちぎって
水分を含ませて、それを部屋にま
いて、チリを取るようにして掃除
したもんですけどね。

多賀 昔は、チリンチリンと鈴
を鳴らしながら、手押し車でゴミ

を集めに来ましたが、もうその頃
には、トラックで来ていました
ね。

井上 ポリバケツに変わったと
きには、町会でまとめて注文を
取ったこともありました。区画整
理が終わつて、道が広くなつて、
トイレも水洗になつて、道路から
はゴミ箱が消えた。ちょうど、東
京オリンピックが始まる直前のこ
ろでしたよね。

水

石田輝雄

水筒の水は、末期の水”とは言
わないまでも、必ず少しは残して
おくもの、と日頃兵営で教育指導
されたものです。
いざ戦場に出て其の通り守られ
るなら又何おか言わん、と言うこ
とでしょう。

雨期が終わると北支の戦場も日
毎に暑さが加わってきます。あの
頃は毎日が、急追 急追”とて行
軍の連続でした。

思い出しても良く歩いたものと
思います。

青々とした麦畑も何日か刈り取
られて赤茶けた眺望でした。情
性と言うのでしょうか 足が嫌々
体を運んでいるようでした。
陽射しを遮るものは何もありま
せん。

如何にも暑い 水が欲しい 水
筒の水は既に一滴もないのです。

其の時、前に行く隊列が急に乱
れました。

小川が流れている様です。
乱れた隊列は少時すると何事も
なかつた様に暑い陽射しの下を
黙々と進んでいきました。
間も無く私達も其の処に到着し
ました。

正しく川です。川幅は十メー
トル位で浅い川です。先を争つてこ
の川の水を飲みました。

軍靴に踏みにじられて濁水と変
わつている水を生身の人間として
我が身可愛さで、何と水の甘い事
よ、生き返つた心持ちで行軍の列
に入りました。

前進し乍川の上流に目を向けま
した。何と今朝の小戦で倒れた
軍馬三四頭横倒しになつて折り重
なつていました。

川の水はこの屍を洗い清める様
に下流へと流れているのでした。
私が飲んだこの上もない甘い水
がそう其の水なのです。

OST

OSTは寒い季節の時は、余り
行事をしないで冬眠しておりま
す。

二月二十八日(木) 区役所二階
でレクダンスの講習会があり二
名参加しました。お年を召した
方々がとても元気で張切ってい
らっしゃいました。OSTとして
は若手の方が参加したのですが楽
しかったけれど、むずかしく疲れ

たそうです。

三月六日(水) 曳舟文化セン
ターで女性委員主催の映画「川の
流れの様に」を観賞しました。入
場料の一部を福祉の方々へ寄付す
るそうです。幼い時の友情をしみ
じみ感じさせるストーリーでし
た。

三月二十三日(土)、二十四日
(日) 高齢者作品展曳舟文化セン
ターで開きます。OSTでは手作
りハンドバック、袋物、書等、出
品致しました。他の老人会の
方々、いずれ劣らぬ手作りの品々
には感服いたしました。OSTも
負けず立派な作品でした。

三月二十四日(日) 二、三月生
まれの方の誕生日会をいたしまし
た。

婦人会

一月二十四日婦人会の新年会を
「庄や」押上店にて開催いたしま
した。当日の出席者は、二十九名
で新年賀詞交換会をやりながら、
ビンゴゲームで非常に華やき、大
変賑やかな楽しい会合でありまし
た。

婦人会恒例の日帰り旅行の計画
を五月末頃に行っています。行き先
希望等がありましたら、婦人会の
役員までご連絡ください。多数の
ご参加のほどお願いいたします。

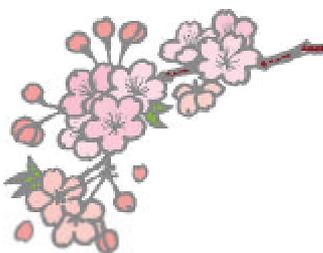
俳句「春の句」四席 U子

春野菜 客待ち顔に
積みれけり

水温む 無心に浮かぶ
都鳥

身のまわり 出来る幸せ
路の臺

恙がなく 老いて甘茶の
杓をとる



編集後記

今回も四ページの新聞になりま
した。可笑しい記事や真面目な記
事が入り交じり、編集中でもニヤニ
ヤしたり、無言になったりしてい
ました。

今年の桜はせっかちのようで既
に葉桜。なんと慌しい限り。
今回は新年度になりますが、相
変わらずの新聞になります。
で・・・

ぜひ皆様のご感想やご意見をお寄
せください。